

第2次地域公共交通計画【概要版】

【地域の交通の目指す姿】

多様な場面で公共交通サービスが利用でき、人や地域が活発に交流し、暮らしやすく魅力的で活気あるまち

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

高齢化が顕著に進むと予測されることから、ますます公共交通の重要性が高まりつつある一方、現在の「あねっこバス」は利便性の観点からも課題があることから利用が限定的であり、公共交通を必要とする住民に十分にサービスが行き届いていない現状もあります。

これらの変化に対応するため、住民、交通事業者、行政などが一体となって持続可能な地域公共交通を作り、育てることを目的として「第2次 雫石町地域公共交通計画」を策定します。

2 計画区域

雫石町内全域

3 計画期間

令和7年度から令和11年度までの5年間

第2章 基本理念と基本方針

1 公共交通の現状と課題

- ・自家用車も含め、交通手段の整理と調整を行い、町民や来訪者が使いやすい公共交通にする必要がある
- ・自家用車を保有しない世代に対し、公共交通の魅力を知り、利用するきっかけをつくる必要がある
- ・多様な主体の強みを活かした施策展開に向けた情報の共有と連携体制をつくる必要がある
- ・効果的な交通施策の展開に向け、利用者のみならず、住民誰もが交通について考え、話し合う機会をつくる必要がある
- ・交通事業者間で情報共有を徹底し、役割を明確にしたうえで施策を展開する必要がある
- ・あねっこバスなど公共交通の運営状況や公共交通の実態や意義を共有するツールと機会を創出する必要がある。

2 基本方針

基本方針1 つくる 利便性が高く、持続可能な交通サービスを形成します	地域資源の強みを活かした最適な交通ネットワークの形成
	地域公共交通について学習と体験ができる機会の創出
基本方針2 つなぐ 公共交通機関同士の連携と、行政・事業者・住民の連携を構築します	地域資源の強みを活かした最適な交通ネットワークの形成
	地域公共交通について学習と体験ができる機会の創出
基本方針3 いかす 利用者が公共交通の維持と利用に必要な情報を容易に入手できるようにします	交通事業者等、関係機関との情報共有と連携強化
	地域公共交通に関する情報の見える化と提供

第3章 目標、施策・事業、推進体制

【基本理念】

多様な場面で公共交通サービスが利用でき、人や地域が活発に交流し、暮らしやすく魅力的で活気あるまち

【基本方針】

基本方針1 つくる

利便性が高く、持続可能な交通サービスを形成します

基本方針2 つなぐ

公共交通機関同士の連携と、行政・事業者・住民の連携を構築します

基本方針3 いかす

利用者が公共交通の維持と利用に必要な情報を容易に入手できるようにします

【目標】

地域資源の強みを活かした最適な交通ネットワークの形成

地域公共交通について学習と体験ができる機会の創出

地域資源の強みを活かした最適な交通ネットワークの形成

地域公共交通について学習と体験ができる機会の創出

交通事業者等、関係機関との情報共有と連携強化

地域公共交通に関する情報の見える化と提供

【施策・事業】

- ①鉄道・バスの利活用
- ②あねっこバス・まちなか巡回バスの改善に向けた見直し
- ③公共交通を活用したおでかけ支援による利用促進
- ④公共交通のサポート人材の育成

- ①小・中学生を対象とした出前授業の実施
- ②各種イベントでの公共交通の情報発信

- ①交通資源の維持に向けた交通事業者との連携体制の確立

- ②持続的な公共交通のための地域輸送資源の活用
- ③主要施設と連携した利用促進の検討
- ④観光客向け二次交通の確保に向けた検討
- ⑤近隣自治体との連携による持続性の高い交通施策の検討

- ①地域懇談会等での議論の場の創出
- ②スクールバスの運行内容における相談体制の確立

- ①交通手段間の乗り継ぎに配慮した運行ダイヤの見直し

- ①利用しやすい公共交通の環境づくりに向けた地域住民ニーズの把握
- ②公共交通情報・公共交通マップ等の作成・活用

計画の推進体制

本計画の推進と進行管理は、雫石町地域公共交通活性化協議会が担います。交通事業者や住民等との間で、計画の着実な実施に向けた全体調整を行います。

PDCAサイクルによるマネジメント

本計画の評価・検証にあたっては、目標の達成状況等を検証指標で適切に評価します。PDCAサイクル(Plan:計画、Do:実行、Check:評価、Act:改善)を活用し、定期的に開催する雫石町地域公共交通活性化協議会において評価・検証を行い、必要に応じて事業の改善を図りながら計画を推進します。